

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

1
No.767

P2 年頭所感

P5 特集

阪神・淡路20年ー1.17は忘れないー
「県民ボランティア活動」の
これまでとこれから

P8 「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ! 全県キャンペーン

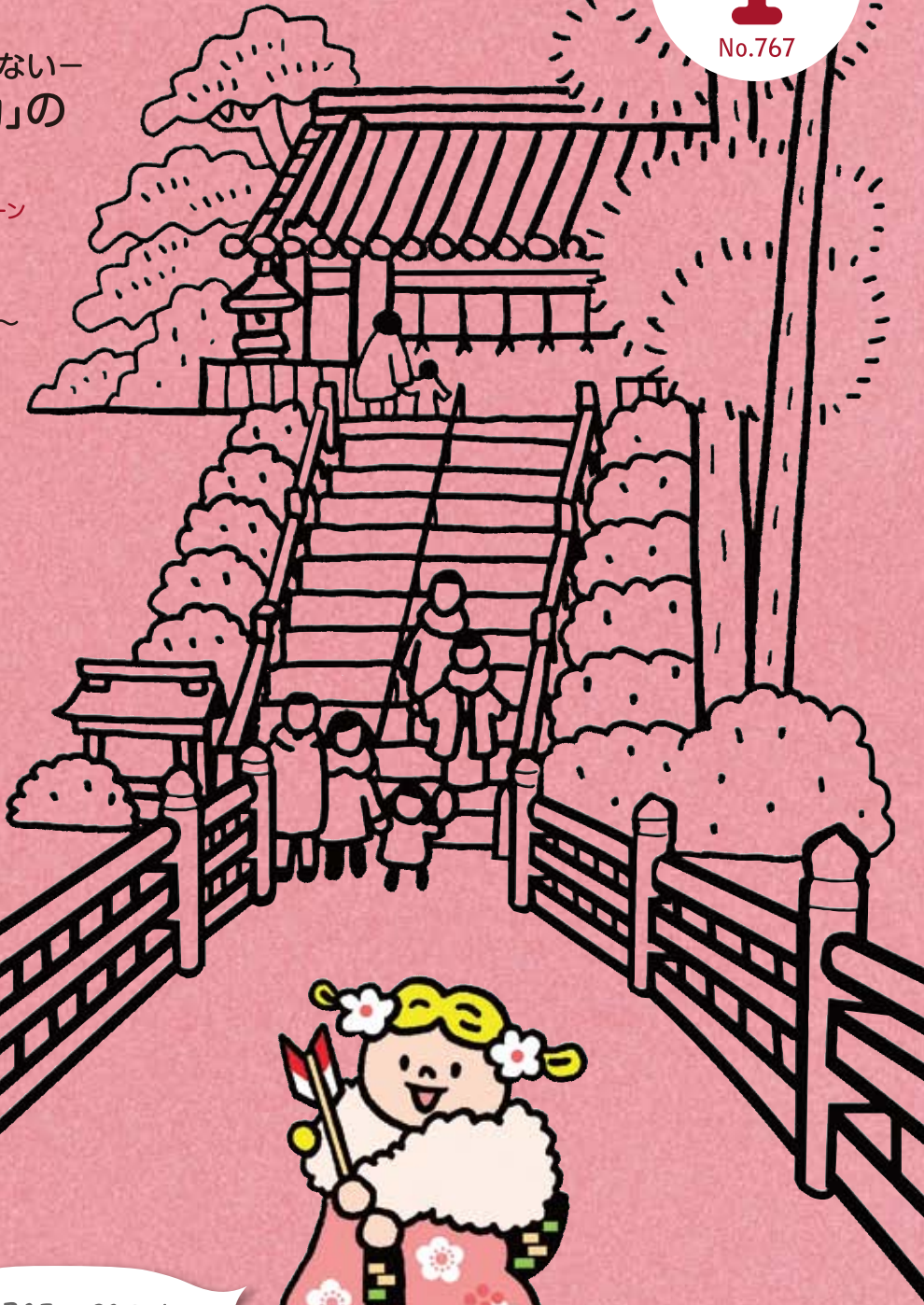
P9 地域を駆ける! ワーカー物語

地域はやっぱり助け合い!
～支え合いが進む地域を目指して～
猪名川町社会福祉協議会
別宮 新吾さん

P10 ひょうごの福祉NOW

P11 みんなの広場

P12 インフォメーション



1月15～21日は
「防災とボランティア週間」
だよ!



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。

川西市

年頭所感

新年あけましておめでとうございます

安全安心と元気の創造

兵庫県知事 井戸敏三



新年あけましておめでとうございます。
 今年は、阪神・淡路大震災から20年の節目を迎えます。未曾有の災害から得た経験と教訓を発信し続けるとともに、復興を成し遂げてきた兵庫の力を、未来に向かって、世界に向かって、一層力強く発揮する好機の年としようではありませんか。
 昨年末、国政の新たな体制が固まりました。人口減少の克服や東京一極集中の是正など地方創生の動きの本格化に向けて、今こそ、地方が主導する国づくりを進めるべき時です。兵庫の多様性を

生かし、個性ある地域の発展に全力を尽くしていきましょう。

第一は、安全安心の確保。
 地震、津波対策のほか、昨年8月の豪雨災害を踏まえた風水害への備えを強化します。また、2025年問題を見据えた福祉・介護・医療の充実や、子どもや高齢者など社会弱者対策を進め地域社会での暮らしの安心を確保します。
 第二は、活力ある地域経済。
 グローバル市場でも存在感を示すオンリーワン企業の育成や、産業としての農業の振興、ブランド化を進めます。子育て環境の充実とあわせ、女性、若者、高齢者、障害者など多様な人材の社会参加を促し、人口減少社会の活性化をめざします。
 第三は、地域の元気の創造。
 山陰海岸ジオパークなど多彩な地域資源を活用した広域観光圏の形成や、交通ネットワーク等社会基盤の整備、淡路花博2015花みどりフェアの開催などにより、地域活性化と内外との交流拡大を図ります。

ふるさとへの愛着と20年間の復興の歩みを基礎に、柔軟な発想と地域主導の行動で直面する課題に挑み、兵庫の新時代を切り拓いていきましょう。

地震乗り越え 未来をめざす
 ふるさと兵庫 新しい創造

「2015年」の新春を迎えて

兵庫県社会福祉協議会 会長 武田 政義
 新年あけましておめでとう
 ございます。



県民の皆さまにおかれましては、日頃より地域福祉の推進にご尽力を賜り、厚く御礼を申し上げます。
 現在、国を挙げて社会保障制度改革が進められています。とりわけ、平成27年度は、介護保険制度改正や子ども・子育て支援新制度の本格施行など、改革の大きな区切りを迎えることとなります。
 また、1月17日には阪神・淡路大震災より20年を迎えます。多くの尊い命が失われた震災の教訓を踏まえ、本会では災害ボランティアセンターの運営支援や災害時要援護者支援などの推進に積極的に取り組んでまいります。

さらに平成27年は、「県社協2015年計画」や「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最終年度を迎える年となります。本会ではこれらの事業の検証を行いながら、キャンペーン活動の定着に向けて総仕上げを行うとともに、次期計画の策定に役員が一丸となつて取り組んでいく所存です。
 「認め合い」ともつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉」の実現に向けて、一層気を引き締めて取り組みを推進してまいりますので、皆さまのさらなるご支援をお願いいたします。

誰もが参加する福祉のまちづくりをめざして

兵庫県共同募金会 会長 菅原 巖
 新年あけましておめでとう
 ございます。



県民の皆さまには、常日頃より赤い羽根共同募金運動に格別のご理解とご支援を賜り、厚くお礼を申し上げます。
 平成26年は赤い羽根ひょうご運動スローガン「やさしさが 必ずとどく 赤い羽根」のもと、募金目標額を7億2468万2000円として募金運動に取り組んでまいりました。
 県民の皆さまからの温かいご支援によりお預かりしました募金は、高齢者のふれあいいきいきサロンや子育て支援、地域のボランティア活動の支援、障害者支援施設の備品整備など、さまざまな民間社会福祉活動を資金面で応援しています。また、大規模災害時における災害ボランティアセンターの立ち上げや運営のためにも積み立てをして活用を図っています。

これからも、募金を通じて誰もが福祉活動に参加できるよう、共同募金運動を推し進めてまいりますので、本年もなお一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。
 皆さまのご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のごあいさつとさせていただきます。

兵庫県社会福祉協議会

役員一同

- 会長 武田 政義
 副会長 中後 仁美
 (三田市社会福祉協議会会長)
 婦木 治
 (県社会福祉法人経営者協議会会長)
 加納 多恵子
 (県民生委員児童委員連合会会長)
 中村 三郎
 (神戸市社会福祉協議会理事長)
 常務理事 永守 研吾
 理事 吉村 進吾
 (加東市社会福祉協議会会長)
 谷 勝雄
 (相生市社会福祉協議会会長)
 小林 哲夫
 (養父市社会福祉協議会会長)
 長井 克己
 (丹波市社会福祉協議会会長)
 谷口 啓一
 (南あわじ市社会福祉協議会会長)
 亀田 龍昇
 (県民生委員児童委員連合会 副会長)

- 高田 實
 (神戸市民生委員児童委員協議会理事長)
 小林 公正
 (県保育協会会長)
 石田 文徳
 (県老人福祉事業協会会長)
 黒川 恭眞
 (神戸市社会福祉協議会施設部会長)
 水野 雄二
 (神戸YMCA 総主事)
 岡田 和隆
 (県身体障害者福祉協会理事長)
 山添 令子
 (生活協同組合コープこうべ常勤理事)
 金澤 和夫
 (県副知事)
 小西 康生
 (神戸大学名誉教授)
 松澤 賢治
 (流通科学大学教授)
 薦野 信
 (元県社会福祉協議会 常務理事)
 監事 稲野 廣
 (宝塚市社会福祉協議会理事長)
 光岡 研士
 (県知的障害者施設協会 副会長)
 川本 幹雄
 (公認会計士)



阪神・淡路20年 -1.17は忘れない- 「県民ボランティア活動」の これまでとこれから

阪神・淡路大震災から20年。震災の救援・復興活動の中で広がったボランティア活動により、1995年は「ボランティア元年」と呼ばれている。その後、特定非営利活動促進法などの動きを経て、ボランティアやNPO等の県民ボランティア活動は分野や世代を超えて広がった。災害時や地域生活のさまざまな場面において、県民ボランティア活動は今や不可欠な存在となっている。今回の特集では、この20年間の兵庫県における県民ボランティア活動の広がり今後の展望について考えたい。



阪神・淡路大震災直後の仮設住宅におけるボランティア活動

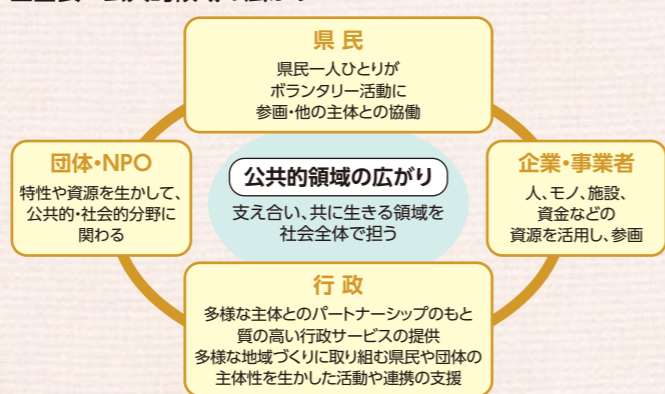
阪神・淡路大震災から根付いた 県民ボランティア活動

阪神・淡路大震災では、全国からボランティア経験の無い多くの若者や組織に属さない個人が、何かせずにはいられないという思いで被災地に駆け付け、さまざまな課題解決に取り組んだ。ボランティアの裾野が大きく広がり、平成7年は「ボランティア元年」と呼ばれるようになった。

大震災直後のボランティア活動の広がりを受け、平成10年3月には、福祉、環境、まちづくり等、さまざまな分野で活動を行う団体に法人格を与え、自由な社会貢献活動の促進を図る「特定非営利活動促進法」が成立(平成10年12月施行)。また、本県においても「県民ボランティア活動の促進等に関する条例」が施行(平成10年12月)された。本格的な成熟社会の到来にあたり、公的領域と私的領域の中間に位置する公共的な領域を担うボランティアセクターを社会の中に確立することの大切さを確認し、県民相互の協力のもと、ボランティア活動やNPO活動、

地域活動などの社会公益を実現する県民ボランティア活動を支援・促進することを定めた。

■図表1 公共的領域の広がり



その後、本県では「ひょうごボランティアプラザ」(以下、「プラザ」)の開設(平成14年6月)や、「県民の参画と協働の推進に関する条例」を施行し(平成15年4月)、ひょうごボランティア基金(基本財産約100億円)により、草の根のボランティアグループから中間支援を行うNPO法人まで多岐にわたる運営活動支援や、団体間のネットワークづくりを進め、ボランティア活動の広がり支えてきた。

謹賀新年

兵庫県福祉センター 入居団体一同

一般社団法人	兵庫県老人福祉事業協会	会長	石田 文徳
一般社団法人	兵庫県介護老人保健施設協会	会長	森村 安史
一般社団法人	兵庫県知的障害者施設協会	会長	蓬萊 和裕
公益社団法人	兵庫県保育協会	会長	小林 公正
公益社団法人	兵庫県児童養護連絡協議会	会長	吉田 隆三
兵庫県乳児院連盟		会長	八木 健
特定非営利活動法人	兵庫セルプセンター	理事長	山崎 玲輔
公益財団法人	兵庫県身体障害者福祉協会	理事長	岡田 和隆
社会福祉法人	兵庫県視覚障害者福祉協会	会長	岩崎 敏彦
一般財団法人	兵庫県肢体不自由児者協会	理事長	鄭 正秀
公益社団法人	兵庫県精神福祉家族会連合会	会長	本條 義和
公益財団法人	兵庫県手をつなぐ育成会	理事長	小原 冷子
一般社団法人	兵庫県子ども会連合会	理事長	揖場 攝
一般社団法人	兵庫県社会福祉士会	会長	岡本 和久
一般社団法人	兵庫県介護福祉士会	会長	安達 眞理子
一般社団法人	兵庫県介護支援専門員協会	会長	垣内 達也
一般社団法人	兵庫県音楽療法士会	理事長	松崎 聡子

兵庫県社会福祉協議会では、県民・福祉関係者の皆さまからのさまざまな相談を受け付けています。

社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会

(神戸市中央区坂口通2-1-1) TEL078-242-4633(代表)
※土日・祝日・年末年始は休業 URL <http://www.hyogo-wel.or.jp/>

福祉の仕事・資格に関するご相談は
福祉人材センター
TEL078-271-3881

65歳未満で発症する認知症についての本人・家族の生活相談は
ひょうご若年性認知症生活支援相談センター
TEL078-242-0601(9:00~12:00、13:00~16:00)

福祉サービスの苦情相談に関するご相談は
福祉サービス運営適正化委員会
TEL078-242-6868(10:00~16:00)

ボランティア活動に関するご相談は
ひょうごボランティアプラザ
(神戸市中央区東川崎町1-1-3 神戸クリスタルタワー6階)
TEL078-360-8845(月~金曜9:00~19:00、土曜9:00~17:00)
※日曜、祝日、GW、盆、年末年始は休館
※NPO相談は要予約(月曜11:00~19:00、土曜9:00~17:00)

福祉職場の人材育成に関するご相談は
兵庫県社会福祉研修所
(神戸市中央区中山手通6-1-30) TEL078-367-3001
介護支援専門員研修専用 TEL078-367-5211

2014年福祉のできごと

- 1月 政府が障害者権利条約を批准
- 3月 「第3期兵庫県地域福祉支援計画」の改定
- 4月 県内の認定こども園の認定件数(118件)が2年連続日本一に
- 6月 「医療介護総合確保推進法」が成立
- 7月 全国初の「小児筋電義手バンク」が設立(県立リハビリテーション中央病院) 厚労省「社会福祉法人の在り方等に関する検討会」が報告書を公表
- 8月 第53回社会福祉夏季大学開催
- 11月 「平成27年度兵庫県の社会福祉政策への提言」 「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーン総会・講演会開催
- 10月 8月16日からの大雨により丹波市を中心に災害が発生 社会保障審議会福祉部会で社会福祉法人制度と福祉人材確保対策の検討を開始
- 11月 赤い羽根共同募金運動開始
- 10月 第63回兵庫県社会福祉大会開催



県民ボランティア活動の現状

この1月には阪神・淡路大震災から20年を迎える。震災を経験していない県民も増え、記憶の風化が懸念される一方で、東日本大震災等で得られた知見や経験、県民の地域ぐるみによる実践活動等の蓄積も進んだ。

地域に根付く

県民ボランティア活動

このたび、プラザが県内5000の活動団体を対象に実施したアンケート調査(回答数2642団体)では、阪神・淡路大震災からの20年を振り返り、75%の団体が「ボランティア活動の社会の認知度が高まり、社会の中での役割を果たすようになった」と評価。約6割の団体が「福祉・保健・医療」の分野で活動しているが、新しく発足した団体ほどその割合は低くなり、「子ども」「文化・スポーツ」「まちづくり」等の分野の割合が増えている。さらに、市区町村を超えて活動している団体が、発足

時には22%であったものが現在は31%となるなど、活動分野や地域に広がりが見られる。

また、5年前よりも活動の種類が「増えた」団体が43%、「減った」団体が15%であったのははじめ、利用者が数や総支出金額でも増加した団体が減少した団体を上回っている。ボランティア活動団体が、全体として多くの種類の活動に関わり、利用者や経済的規模も拡大しているなど、着実に地域に根付いていることがうかがわれた。

NPO法人の広がり

NPO法人については、平成14年のプラザ開設当時、約300だったものが、平成25年には2000を超えている。また、前述の調査では、資金不足を課題に掲げる団体が47%と最も多かったが、全国的にもNPO法人の認証数はコンビニエンスストア数に匹敵するといわれており、大きな広がりを見せている。県内には、NPOの設立・運営支援、人材育成、活動資金等のマッチングやネットワークづくりを行うNPOが数多く存在し、NPOの基

盤整備やレベルアップを支援する「ひょうご中間支援団体ネットワーク」(28団体が参画)も組織されるなど、NPOに対する支援も大きく広がってきた。

被災者に寄り添った災害ボランティア活動

自然災害や事故の発生後、救援ボランティアが駆け付けられることが、災害文化として根付きつつある。東日本大震災の被災地には、本県から多くのボランティアが参加。プラザでは、ボランティアバスの派遣を



ボランティアバスによる東日本大震災の支援活動

現在も続けるほか、現地に「ボランティアインフォメーションセンター」を設置した。前述の調査でも、全体の約18%が東日本大震災の支援活動を行い、そのうち約3分の1は現地に赴いており、全体の2割の団体が今後も活動したいとしている。

平成26年8月の丹波市豪雨災害においても、丹波市・丹波市社協と自治会や地元団体等がよく連携し、災害ボランティアセンターが迅速に設置・運営された。災害ボランティアセンターの運営に関する協定を丹波市と市社協が交わしており、資機材・財源の確保や専任職員の配置がスムーズに行われた。また、現地のボランティアセンターとともに、現地入りしたボランティアや学識経験者が、Facebook等で広く情報発信した結果、発災から3カ月で約1万7000人のボランティアが現地で活動したほか、支援者間の自主的なネットワークもつくられた。



丹波市豪雨災害でのボランティアの活躍

地域のネットワーク

発災直後から、丹波市社協の災害ボランティアセンターと共に地元の災害支援ボランティアネットワークが現地でコーディネートを行ったほか、NPO法人いきいき前山等も、ボランティアセンターサテライトの運営に尽力。各小学校区単位の「自治協議会」や自治会も含めた地縁団体とNPOが日頃から連携していたことが、効果的な支援につながった。

災害救援NPO等との連携

また、過去の自然災害では、専門技能を有する災害ボランティアと地元ボランティアセンターとの連携が

県民ボランティア活動の今後とプラザの役割

ボランティアセクターへの期待

少子高齢化が進み、本格的な成熟社会を迎える中、ボランティアセクターの役割・期待はますます高まる。改めて、より多くの県民がボランティア活動の大切さを認識し、このような活動が広がり、資金的にも自立していくことが求められる。そのためには、NPOをはじめとするボランティア活動団体が、積極的に自らの活動をPRすることが求められる。また、人々も活動を理解し、参画するとともに、寄付や出資を行う社会になることが望ましい。

プラザには、時代の流れに応じた、ボランティアセクターへの支援が求められる。

地域におけるNPO活動の活性化

農山漁村部では、地縁系団体の後継者不足・活動者固定化が課題となっている。農山漁村部で活動するNPO等が地域団体と連携して活躍することが期待される。

プラザも、西播磨・但馬・丹波・淡路地域等におけるNPOの活性化を目指し、ボランティア基金助成のメニュー変更等を行ってきたが、今後とも地域活性化支援の一翼を担っていく。

企業とNPOとの連携を支援

NPO等にとって、企業が有する資金調達・広報に関するノウハウは、大きな魅力である。従来の企業のCSR部門等との連携に加えて、子育て支援や地産地消など個々のNPOの専門性を生かし、企業の業務そのものとの連携も始まりつつある。

プラザでも、企業とNPOとの新たな連携の場づくりを支援していきたい。

災害ボランティア活動の環境づくり

阪神・淡路大震災から20年。ボランティアは、災害の被災地にとって不

参加者募集

ひょうご震災20年 ボランティア活動フォーラム

基調講演やパネルディスカッションを通してボランティア活動の歩みを振り返りながら、NPOや地域活動団体等の交流を進め、今後の活動の発展につなげます。

日時 平成27年1月16日(金) 9:45~16:00

第1部 県民ボランティア活動フォーラム

第2部 災害ボランティアフォーラム

会場 神戸クリスタルタワー クリスタルホール

ひょうごボランティアプラザ

TEL078-360-8845 ※申込締め切り1月9日(金)

ひょうごボランティアプラザ

このコーナーでは、県内の社協職員など“地域福祉を進める人々”の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。

地域を駆ける！
ワーカー物語

地域はやっぱり助け合い！ ～支え合いが進む地域を目指して～

心に残るエピソードは？

社協では、一人暮らしの高齢者に、ボランティアが調理した弁当を週1回届ける「ふれあい弁当サービス」を実施しており、現在、50名ほどの方が利用しています。配達利用者の近所のボランティアに担っていた働き、社協職員も関わりながら見守り続けています。「利用者」が「体調が悪い」と言っていたと配達ボランティアの方から教えていただくこともあり、そのような時は、利用者の普段の生活を気にかけてくださっていることを実感します。こういう取り組みを続けることで、万一のときもいち早く異変に気付くことができると思います。

力を入れたい活動は？

福祉委員会の活動をより充実させることです。現在、町内には8つの小学校区・地区全てに福祉委員会が設置され、サロン活動や福祉イベントを中心に住民同士の交流活動が行われています。中にはサロンで認知講座を開催している福祉委員会もあります。このような生きづらさを抱える人を理解し支えようという活動を、他の地区の福祉委員が学ぶ機会をつくって広めていきたいと思っています。さらに、町内には、認知症の方や障害のある方、経済的に困窮している方、複数の課題を抱えている世帯など、さまざまな課題が山積しています。こ



トライやる・ウィークの中学生らと共に弁当を配達。孫の訪問に思わず笑顔が溢れる

れらの課題に対し、地域として、また社協としてどう対応できるかについて、福祉委員や民生委員・児童委員、関係機関が連携を密にして、一緒になって考えられるよう、支援していきたいと思っています。

大切にしていることは？

「地域の活動者は、人生の大先輩。学ぶことがたくさんあります」と語る別宮さん。地域に出向き、顔の見える関係づくりを大切にしている姿に、地域づくりにかける熱い思いを感じました。

猪名川町社会福祉協議会 べつみや しんご 別宮 新吾さん

Personal History

- 33歳 財団法人猪名川ゆあい福祉公社と社協が合併。福祉公社から社協へ入局。総務課に配属
- 40歳 現在の地域在宅課へ異動
- 42歳 地区福祉委員会を担当しながら、介護保険サービス、地域福祉活動、障害者相談就労支援事業等も担当している



TOPICS

共に生きる地域づくりを目指して

高砂市では、10月26日に共に生きる地域フォーラム(みんなの社協フェア)を開催。福祉向上に貢献された方々への表彰や登録ボランティア団体の活動発表、フリーパーソナリティーの角淳一さんを招いた記念講演を行いました。

また、「ストップ・ザ・無縁社会」および市社協やボランティア、当事者団体等の活動展示に加え、高校生による東北災害支援報告会、いきいき百歳体操啓発のDVD上映会などの催しを通じ、参加した地域の関係団体や大勢の市民が、一緒に地域づくりを考える一日となりました。



認知症の人も家族も共に生きる地域へ

養父市では、11月1日に「ありがとう養父市社協10周年 しあわせフェスタ2014」を開催。午前には、地元の特産品販売などのバザーや点訳などの体験コーナー、認知症啓発の催しがあり、子どもから高齢者まで幅広い世代の交流が深まる機会となりました。

午後には、市内で「認知症カフェ」に取り組む山崎敬一さんが講演。若年性認知症の妻が持つ力に目を向けた介護体験や認知症カフェでの仲間との出会いの体験談から、身近な地域のつながりの中で住民も専門職も一緒になって考え、支え合うことの大切さを確認しました。



「ストップ・ザ・無縁社会」 広がれ! 全県キャンペーン

<http://stop-muen.jp>

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最新情報や、支え合いのメッセージをお伝えします。

相互理解がつながる一歩!

宝塚市では、10月30日に地域フォーラムを兼ねて宝塚市社会福祉大会を開催しました。

講演では、女優の石井めぐみさんの障害がある子どもの育児経験から、懸命に生きる子どもの姿を通して命の大切さを学ぶとともに、相手のことを理解することで、人と人がつながる一歩になると提起いただきました。

また、社協創設60周年を記念した表彰や、市内の作業所や広島などの被災地の名産品をそろえた物販展にも多くの人が訪れ、大いににぎわいました。



キャンペーンにあなたも参加してみませんか?

少子高齢化やライフスタイル・意識の変化、長引く不況などから、家族や地域、職場のつながりや支え合いが薄れているといわれています。このような社会状況は、「無縁社会」と呼ばれています。

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンは、県内の福祉・経済・労働など分野の異なる18団体を幹事団体として、「無縁社会」への警鐘を鳴らし、県民の皆さんと共に課題を共有して一歩を踏み出すための取り組みです。推進協議会が中心となり、211団体(12月12日現在)の推進団体と共に、情報発信や地域フォーラムなどの事業を展開しています。あなたにできることから、一歩を踏み出してみよう!

全県キャンペーンホームページ
<http://stop-muen.jp/>

ストップザ無縁社会 検索

【各部会で出された主な意見】

- 地域福祉推進部会(12月9日開催)

【部会長:中後 仁美(三田市社会福祉協議会会長)】

 - ・「ストップ・ザ・無縁社会」全国キャンペーンは素晴らしい取り組みである。当市でも無縁社会への対応の一つとして「あいさつ運動」の推進につながっている。継続した取り組みを進めてほしい。
 - ・介護保険制度改正により「生活支援コーディネーター」の配置が進むが、既存の地域での支え合い体制を生かすようにしてほしい。
 - ・ボランティア活動と有償活動との連携は重要。具体的にボランティアセンターの取り組みとして提起してほしい。
- 権利擁護部会(12月5日開催)

【部会長:加納 多恵子(兵庫県民生委員児童委員連合会会長)】

 - ・認知症の人にとっては、要支援の状況が一番大切な時期となる。「生活支援コーディネーター」は、認知症のことを理解している人が担ってくると安心である。
 - ・災害時に備えて、「あそこには障害者がいる」と思われるような地域づくりにつなげてほしい。阪神・淡路大震災でも多くの障害者が亡くなった。個人情報保護よりも人命が大切である。
- 福祉事業推進部会(12月9日開催)

【部会長:婦木 治(兵庫県社会福祉法人経営者協議会会長)】

 - ・地域公益活動は、社会福祉法人が本来実施すべきものであり、課税を逃れるために取り組むという姿勢は間違いである。社会福祉法人の使命を踏まえてポジティブな進め方をしていくのが大切である。
 - ・福祉人材確保について、「学生が何を求めているのか」などの情報を集めて提供いただきたい。そうすれば事業所でも対策を立てられる。
 - ・福祉施設と市町の教育委員会との接点が希薄。種別協議会だけでは連携も進めにくいので、全県的な展開の支援をしてもらえないか。

3部会で事業方針案を議論

県社協では、12月5～9日に地域福祉推進部会・権利擁護部会・福祉事業推進部会を開催した。今回は役員改選が10月に行われたことから、新たな体制(任期は2年間)の下での協議のスタートとなった。

今回の部会では、平成27年度の県社協事業方針を中心に議論が行われ、

「ストップ・ザ・無縁社会」全国キャンペーンや、介護保険制度改正の動向、社会福祉法人による地域公益活動の在り方など、活発な議論が行われた(左表参照)。

今後は、各部会での意見を踏まえ、12月17日の理事会、評議員会での協議を経て事業方針を決定し、具体的な事業計画、予算案を取りまとめていく予定である。



ひょうご若年性認知症生活支援相談センターでは、11月30日に若年性認知症啓発フォーラムを開催し、約380人が参加した。

講師は、若年性認知症の当事者である藤田和子さん。仕事、家事、子育ての真つ盛りの中で発症し、「認知症は何も分からない、何もできない」といった偏見など、特に初期段階の周囲の理解不足から精神的に苦しんだ経験を踏まえ、「発症初期から介護サービスが必要となるまでの間の情報や支援が少ない」という、空白の期間に悩み、孤立していく方が多い」と指摘。「まずは本人の声を

**認知症の本人の視点から学ぶ
若年性認知症啓発フォーラムを開催**

聞いてほしい。本人の持っている力を生かし、家庭、地域、職場などにおいて役割を担いながら、今まで通りの関係を続けていけるよう、周囲の理解やサポートが大事」と語った。



当日は、「本人と共につくる支援は、本人の周りになる人たちにも寄り添ったものになる。全ての人が、希望と尊敬をもって暮らせる社会の実現につなげたい」との登壇者からの発言もあった。これらのメッセージを今後の活動にどうつなげていくか、参加者それぞれが考える機会となった。

みんなの広場

兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです

小児筋電義手バンクを設立 ～子どもたちの夢・希望実現のために～

**兵庫県立リハビリテーション中央病院
ロボットリハビリテーションセンター
(社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団)**

兵庫県社会福祉事業団では、平成26年6月にロボットリハビリテーションセンター内に「小児筋電義手バンク」を設立しました。

筋電義手とは、筋肉が収縮するときに生じる微量の筋電位を利用して、本人の意思で指を動かせる義手です。上肢を欠損した子どもたちの両手を使った動作を可能にし、体のバランスを改善するなどの有効性がありますが、1本が約150万円と高価で、しかも訓練用筋電義手については公費助成がないなども原因となり、普及が進んでいません。

そこで、広く寄付を呼び掛け、寄せられた寄付金をもとに訓練用筋電義手を確保し、貸し出しを行うための「小児筋電義手バンク」を設立しました。兵庫県でも普及推進のため「ふるさとひょうご寄付金」(ふるさと納税制度)の対象とされました。

多くの皆さまの温かいご寄付をお待ちしております。



寄付のお申し出は、下記までご連絡ください!

- (1)兵庫県立リハビリテーション中央病院
管理部経営企画課(神戸市西区曙町1070)
☎078-927-2727
- (2)兵庫県「ふるさとひょうご寄付金」
兵庫県企画県民部企画財政局総務課
☎078-362-3043

※いずれを通じて行うことができますが、(2)の寄付の方が税制上、より優遇を受けることができます。

連絡先 社会福祉法人兵庫県社会福祉事業団
〒651-2134 神戸市西区曙町1070
☎078-929-5655 FAX078-929-5688
URL <http://www.hwc.or.jp/>

アピールしたい活動の
情報をお寄せください。

問い合わせ
兵庫県社協 総務企画部 ☎078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp

**寄付・寄贈について
(お礼)**

12月10日、生命保険協会兵庫県協会による福祉巡回車の贈呈式が県福祉センターにて開催され、神戸市・相生市社協に福祉巡回車各1台が、県内8市町社協に福祉巡回車各2台が寄贈された。同協会では、平成元年より地域への社会貢献の一環として、従業員からの募金により、県内の市町社協等に対し車両等の寄贈を行っている。



12月2日、関西遊技機商業協同組合から、昨年度に続き社会・地域貢献活動の一環として、車椅子8台が寄贈された。当日は、同組合副理事長の荒谷博文氏より目録が手渡され、本会武田会長より感謝状が贈呈



靴下を製造・販売している岡本株式会社(岡本哲治代表取締役社長・大阪市西区)から、サンプル品の靴下寄贈の申し出があり、このたび本会を通じ、県児童養護連絡協議会の会員施設等に、男性用・女性用および子ども用の靴下2500足が贈られた。同社では、サンプル品を地域福祉の推進に役立てたいと、昨年度から寄贈等の取り組みを続けている。



された。車椅子は、本会を通じ県内の4市町社協に寄贈を行った。

INFORMATION・伝言板

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

全日本冠婚葬祭互助協会 社会貢献基金助成

社会貢献活動を行う団体並びに社会貢献に資する調査・研究を目的とした事業に助成します。
対象団体 非営利組織(財団法人、社団法人、社会福祉法人、NPO法人、その他任意団体、市民ボランティアグループ)、大学、研究機関(研究助成事業のみ個人も可)
対象事業 研究助成事業、高齢者福祉事業、障害者福祉事業、児童福祉事業など
助成額 1件あたり上限200万円(総額1,000万円)
締切り 平成27年2月28日(土)必着
 ④⑤一般社団法人全日本冠婚葬祭互助協会 社会貢献基金 運営事務局
 TEL03-3596-0061
URL <http://www.zengokyo.or.jp/>

一般財団法人杉浦地域医療振興財団 第4回杉浦地域医療振興助成

医療従事者および介護福祉従事者等の多職種が連携して、「地域包括ケア」を実現しようとする活動や研究に助成します。
対象 「地域医療連携」を实践またはこれから実践しようとする活動
助成額 1件あたり上限300万円(総額2,000万円以内)
締切り 平成27年2月28日(土)
 ④⑤一般財団法人杉浦地域医療振興財団
 TEL0566-72-3007
URL <http://sugi-zaidan.jp/>

研修・イベント

1.17ひょうごメモリアルウォーク2015 参加者募集

震災時を思い起こしながら、ゴールとなるHAT神戸・なぎさ公園で開催される「1.17のつどい」に参加しませんか。
日程 平成27年1月17日(土)
内容 一般ウォーク、子ども(親子)ウォーク、1.17のつどい、防災訓練など
申込締め切り 平成27年1月9日(金)必着
 ④⑤ひょうご安全の日推進県民会議事務局
 TEL078-362-9984

1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」 表彰式・発表会

子どもや学生が学校や地域で取り組んでいる

防災教育や防災活動を顕彰します。
日時 平成27年1月11日(日)13:00~16:00
会場 兵庫県公館(神戸市中央区)
参加費 無料(要事前申し込み)
内容 若者による防災教育の活動報告、パネルディスカッション等
 ④⑤NPO法人さくらネット
 TEL0798-64-5829
URL <http://npo-sakura.net/>

兵庫県統計活用セミナー

日時 平成27年2月13日(金)13:30~16:30
会場 兵庫県職員会館(神戸市中央区)
参加費 無料(先着100人)
 ④⑤兵庫県統計協会事務局(兵庫県統計課内)
 TEL078-362-4124
URL https://web.pref.hyogo.lg.jp/ac08/ac08_1_000000303.html

コミュニケーション研修会 「つかって活かそう コミュニケーションのちょっとしたヒント」

日時 平成27年2月14日(土)13:00~17:00
会場 兵庫県民会館(神戸市中央区)
参加費 ひょうごセルフヘルプ支援センター会
 員無料、非会員および専門職者1,000円
 ④⑤特定非営利活動法人ひょうごセルフヘルプ支援センター TEL078-452-3082
URL <http://hyogo-self-help.main.jp/>

第16回兵庫県総合リハビリテーション ケア研究大会

「『精神障害のある人が地域で当たり前暮らす・働く』を考える」をテーマに開催します。
日時 平成27年2月15日(日)10:00~16:30
会場 のじぎく会館(神戸市中央区)
参加費 会員2,500円、非会員3,000円
 ④⑤兵庫県リハビリテーション協議会事務局
 TEL078-927-2727
URL <http://www.hwc.or.jp/reha-kyou/>

これからの「災害ボランティアセンター」を考える全国フォーラム

日時 平成27年2月8日(日)
 13:00~16:30
会場 神戸ポートピアホテル
参加費 無料(定員250名)
内容 基調講演「『ボランティア元年』から20年」渥美公秀氏(大阪大学教授)、パネルディスカッション
 ④⑤兵庫県社会福祉協議会地域福祉部
 TEL078-242-4634
 ※内容の詳細は本会ホームページでもお知らせします。

阪神・淡路大震災から20年を迎えるにあたり、県内ではさまざまな催しが開催されています。下記ウェブサイトに一覧が掲載されていますので、ぜひご参考ください!
ひょうご安全の日公式サイト
URL <http://19950117hyogo.jp/>

行事予定

- 1月 6日~ 介護支援専門員 実務従事者基礎研修 ◆県社会福祉研修所ほか
- 10日 新年福祉のつどい ◆ANAクラウンプラザホテル神戸
- 15日・29日 相談面接技術研修(中級・Cコース) ◆関西学院大学
- 16日 ひょうご震災20年ボランティア活動フォーラム ◆神戸クリスタルタワー
- 16日~ 福祉サービス利用援助事業 事例検討会 ◆たつの市(他3会場)
- 20日 若年性認知症支援セミナー ◆県私学会館
- 20日~ 介護支援専門員 実務研修 ◆舞子ピラほか
- 20日・27日 職場内研修担当者研修Aコース ◆県社会福祉研修所
- 22日・23日 相談面接技術研修(初級・Bコース) ◆県社会福祉研修所
- 26日 福祉サービス利用援助事業専門員・担当者研修会 ◆県福祉センター
 児童福祉施設・保育所中堅職員研修 ◆県社会福祉研修所
- 28日 NPOと行政の協働会議(阪神北地域) ◆宝塚市立男女共同参画センター
- 2月 4日 前頭側頭型認知症家族介護者交流会 ◆県福祉センター
- 8日 これからの「災害ボランティアセンター」を考える全国フォーラム ◆神戸ポートピアホテル
- 12日 第4回社協ワーカー実践研究会 ◆県福祉センター
- 12日・13日 接遇・日常マナーリーダー研修 ◆県社会福祉研修所
- 20日 第5回県内社協事務局長会議 ◆県福祉センター
 経営協 法人経営トップセミナー ◆神戸市内
- 27日・28日 若年性認知症支援研修 ◆但馬長寿の郷

経営理念

私たちは「人と人との出会い」とそこから生まれる「コミュニケーション」を大切に、心豊かな社会の発展に貢献します。

私たちはお客様と心のお付き合いをし、こたわりに応えるサービスと商品を提供します。

私たちは地域の一員として、内外で人々の交流の場を創出し、地域社会の発展に寄与します。

私たちは一人一人が資質の向上に努め、お互いが信頼できる風通しの良い会社を築きます。



〒650-0038
 神戸市中央区西町35 三井神戸ビル3F
 Tel : 078-321-5005
 Fax : 078-321-5019

介護職員初任者研修テキスト

黒澤真夫、石橋真二、是枝祥子、上原千寿子、白井孝子=編纂

- B5判・736頁(2巻セット・DVD付き)
- 定価 本体5,000円(税別)
- 2013年4月発行 ISBN978-4-8058-3785-6

新人介護職に求められる基礎的な知識と技術について、図表やイラストを用いてわかりやすく解説する。介護実践をイメージできる事例も多数収録。「職務の理解」の科目内容を映像化したDVDも添付。



大阪営業所
 〒530-0041 大阪市北区天神橋 4-8-12
 TEL.06-6351-9079/FAX.06-6355-3447